

まじょりーさんに聞く！ 第二回

ブログ名「空気」に異議あり！」「の
就職氷河期世代ブロガー「太一」さんに聞く！

アドレス <http://blog.goo.ne.jp/taichi200707/>

ブログの世界で発信している、新たな「まじょりーさん」
を発掘し、バトンリレーするコーナー！
「まじょりーさんに聞く！」好評連載中です

世の中の疑問や、なんか
変だと思ったことを発信す
る「まじょりーさん」を発掘
し、どんなきっかけでプロ
グを始めたのか等、いくつ
かの質問をバトンリレーで
つなげて行く企画、「まじ
ょりーさんに聞く！」。

第二回目は、大学時代に、
カリフォルニアのベイエリ
アに留学経験がおりになり
る、太一さんにお話を聞き
ました。

—— 第二回で、いきなり男性、
まじょりー太さんの登場です

—— パチパチパチ。

「初めまして、太一です。よろしく
お願いいたします。」

—— では、質問させて
頂きます。年代・既婚
or 独身・子供はいますか？



「独身です。メディアなどに命名さ
れている【就職氷河期世代】です。
おかげさまで、今は就職先が見つか
り働いています。でも、ついこの前
までは、氷河期世代の例に漏れず、
職探ししていたんですよ(笑)。でも、
これは政府の無策のせいというより
採用方針が旧態依然としている企業
側に問題があると思いますけどね。」

—— ネットをするようになったきっかけは？
またブログを始めたきっかけは？



「高校時代のパソコンに
詳しい友人から「イン
ターネットをやると世
界が広がって面白いよ」
と勧められて始めました」
ブログを始めたきっかけ
は…、ちょっと長くなりますけどい
いですか？」—— *yuukichan*

「僕は、カリフォルニアのベイエ
リアに留学経験があるんですけど、
そこで受けた教育から日本に帰って
来て見て、日本のメディアの偏りが
非常に気になるようになりました。
もともと、以前からテレビの報道が
一方の主張(例えば、日の丸・君が代
反対など)しか報道しないことなん
かにも疑問を感じていましたし。」

小学生時代、先生から「日の丸はダ
メだ」と強制された経験があるので、
そうした強制の問題には触れないこ
とも疑問を感じていました。」

—— あっ！ 中山大臣発言で物議を醸した

例の、「日教組」の先生だったのかしら？

「そうらしいです(苦笑)。それで友人に勧められてインターネットをやるようになってテレビ

の情報にも間違いが多いことを知ったんですね。



テレビに対して、更に批判的になりました。ところが周りを見渡せば、殆どの人達がテレビを盲信している状態。大変な危機感を感じました。」

—では、ブログはそう言う危機感がら始められたのですか？

「そうですね。ただ、その頃には、ブログという、個人の意見を発信する場所はまだまだありませんでしたのでイライラしてただけでしたが(笑)。」

—ブログでは主にどんなことを発信しているのですか？

「アメリカでやっていて、**メディアリテラシー教育**も参考にしながら、自分なりに世の中に意見を発せられ

たら...と思っています。ただ、最近仕事が忙しくて、あまり頻繁に更新出来ていませんが...」

—では、ぜひその、**メディアリテラシー教育**について、お教え下さい！

「はい喜んで。**メディアリテラシー**というのは、情報を読み解く力の事です。留学生教育は、当然英語教育が中心ですが、アメリカの文化なども勉強します。英語教育の一環として、テレビ、新聞、ビジネスマンの講演などを見て、英単語や要旨などを書き出すという練習があるのですが、その中に必ず「**Bias (バイアス)**」という項目があるんです。つまり、その主張をした記者などの、**意見の「偏り」**を、必ず見つけてきて下さい、ということなんです。ベイエリアはアジア人やヒスパニックの多い場所で白人達も差別には細心の注意を払っていますからそう簡単に自らの思想の偏りを悟られないように工夫し

ています。その偏りを英語力の乏しい留学生が見つけるのは至難の業ですが、それでも見つけなさい、というんです。」

—全一。

「ある女性教師はリベラル、日本では左翼に分類される人でしたがその人は、



全てのマスコミの報道にも、そして私の意見にも、**Bias (バイアス)**は必ずあります。だからどんな些細な**Bias**でも、探して下さい。

と言っていました。

同じ左翼でも、日本の左翼の傲慢さとは比べると、えらい違いですね。

この話はあくまで留学生教育の話なので、必ずしもアメリカの義務教育で子供相手にこういう教育がなされているとは限りませんが。でも、「Bias」という単語がよく使われて

いるという現状からして日本よりもメディアリテラシー教育が進んでいるんじゃないかなと思っています。」

——まあ、相手を疑ってみるといって文化自体が日本にはなじみませんもんね。

「そうですねー。それにしてもテレビを盲信し過ぎですね…。」

メディアリテラシー教育って言つのは誰にでもBiasはある。Biasのない人は1人もいない。

自分にもBiasはある。さあ、メディアのBiasを見つけてようー

という事なんです。」

「日本じゃ「Bias」にあたる言葉

(偏り、偏向など)はあまり頻繁には使われません。Biasが無い事の方が

美德とされる傾向にあるからでしょう。でも現実には誰しもが、Bias

を持ちながら、それを隠しているだけなんです。何も、「Bias」自体が、

すべて悪い考え方な訳じゃないんで



すけどね…。」

——最近学校なんかでも、どうしても合わない子とでも「仲良くしろ」なんて言われますものね。

【仲良くすること = 良いこと】なんて。

「そう！それも立派なBiasですよ。テレビでよく言ってますよね、『国

同士、仲良くするべきだ。』って。

『必要以上に仲良くすることなく、

適当な緊張感を持つて接するののも一つの考え方だ。』などという意見は、語られませんかからね。」

——たまにそういう意見が出て、周りからボコボコにされていますよね。

「そうですね。そして「Bias」に

注意を払い、自分達の「Bias」も認めなければならぬのが、テレビなどのメディアなのに、日本のメディア

はそれを隠そうとしますからね。

日本では、自分の立ち位置を明確にすることを恐れて、「自分は公平」

と、うそぶく人が多いように感じま

すが、その原因は、やはり僕はメディアの異様な偏りにあると思ってるんです。」

「余談ですが、「リベラル」という用語、日本では一般に「いい意味」

でしか捉えられていませんよね。でも本国アメリカでは、「奴はリベ

ラルだから(苦笑)」のような、悪い意味で使われる事の方が多いって

事だそうですね。アメリカじゃ、保守派がリベラルを批判するのも日常

茶飯事ですよ。

つまり批判が双方向を向いている、「批判の平等」が実現されている訳

です。」

——むっ 難しく

なってきましたね。

「いえいえ(笑)、簡単に言つて、

相反する意見というものがメディアなどで、ちゃんと平等に扱われているって言うことです。もちろん、



アメリカのメディアも「リベラル」(左寄り)が多くて、保守的な共和党のほうがいつもネガキャンされていたりしますが、アメリカのメディアはちゃんと民主党寄りの **BS** があることを自分で認めていますからね。」

— そうなんだ…。

「日本はと言えば、もう、究極の、**左** 一辺倒。『リベラル』『市民派』などと言う言葉が、良い意味でしか使われていないっていう所からしてすでに偏っています。日本では**左翼的な意見だけが正しいと押し付けられていますからね。**

その反対意見もろくに紹介されず、**反対意見が対等な立場に立っていない**っていうことは、ネットに溢れる反対意見を見れば一目瞭然！

これらの反対意見を、テレビは無視してるんですからね。テレビで放映されないことは、無かったことにされてしまうんですから。」

— 力が入ってきましたね(笑)。

「自分達の主張の **BS** を隠して公平なフリをし、都合の悪い意見は隠すのでは、どこかの幕僚長が言っていたように「北朝鮮と同じ」です。日本のマスコミは「暴君」だと断言できますね。



「テレビの欺瞞」というよりも「日本の左翼の横暴」ですよ。気に入らない意見が出たら、寄って集って締め上げていきますからね。

ちなみにどうしても「自分は公平だ」と言い張る人に対しては、好きな芸能人などを聞いてみるのも一つの手段ですよ。そうした嗜好すら「Bias」と呼ぶのだと教わりましたので。」

— ありがとうございました。「メディア

アリテラシー教育」良く分かりました。「最後に、これは言っておきたいんですけど、今、テレビの事はかり

言ってきましたが、じゃあ見ている側の僕たちはどうなのかと言うことです。情報源が、テレビだけの人なんて、**テレビ信者**と言われても仕方が無いんですよ。もっと、一人一人が、本を読んだりして、自分なりの一つの考え方、そう、自分なりの「Bias」を持つ事の方が、逆に健全だと言えると思うんです。

特に、保守的な考え方でメディアに圧殺されている事に不安を感じる人こそ、ネットを見て欲しい。そして本を探して読んで欲しいですね。いくらでも自分と同じ考え方の人がいるんだって事が分かって安心できますから。」

— 熱いお話を聞くことが出来ました。皆さん、また、

ブログにもお立ち寄り下さいね。

